

千曲市における薬剤師会連携推進事業を活用した 重複服薬者・多剤投与者への保健指導について

千曲市役所健康推進課保健センター保健事業推進係

1. 千曲市の状況

重複服薬者

抽出条件

- ①1月に3以上の医療機関で同一薬効の投与（湿布薬、風邪薬を除く）を受ける者。
- ②1月に2以上の医療機関で向精神薬を処方された者のうち処方周期（処方日数）、受診状況から重複を確認した者。

抽出人数・介入人数

12人 → 7人

1. 千曲市の状況 多剤投与者

抽出条件

- ①同一月内に処方日数が1日以上で15剤以上の処方（薬効分類単位）を受けた65歳以上の者。
- ②上記①のうち傷病名にがん、認知症、難病等の記載がなく生活習慣病がある者。
- ③上記①及び②のうち要介護認定のある者は除く。

抽出人数・介入人数

4人 → 1人

2. 令和5年度薬剤師会連携推進事業 保健指導支援

○実施日：12月13日 14:00～16:00

○実施者：更埴薬剤師会薬剤師2名、管理栄養士1名、保健師2名

○実施内容：

①千曲市の実態について

②重複服薬者・多剤投与者の抽出方法について

- ・重複：令和5年度上半期の抽出方法について
- ・多剤：令和5年度上半期の抽出方法について

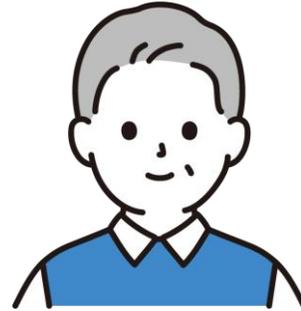
③重複服薬者・多剤投与者の支援内容について

- ・重複：令和5年4月に抽出された7名について
令和5年10月に抽出された1名について
- ・多剤：令和5年4月に抽出された4名について



3. 事例①

【年齢】 40代
【性別】 男性
【傷病名】 不眠症



処方状況

- ・ 22医療機関で睡眠薬の処方を受けている。
- ・ それぞれ別の薬局を利用。

その他

- ・ 国保への加入と脱退を繰り返している。

3. 事例①

保健指導支援

- ・ 転売している可能性がある。
- ・ 薬の処方の上限、副作用などについて説明していただく。
- ・ 医師会へ通告したほうが良い。

医師会に対応を相談。

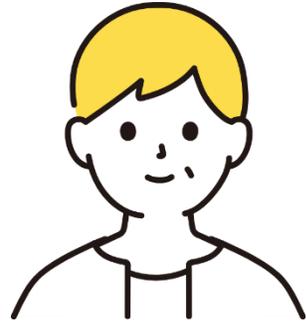
保健センターでの面談を実施

- ・ 睡眠薬をオーバードーズしていた。
- ・ 転売しているわけではなかった。

その後

- ・ 令和6年に国保再加入。レセプトで処方状況を確認している。
(重複服薬は継続中。重複は17医療機関に。)

3. 事例②



親子



【年齢】 50代

【性別】 女性

【傷病名】 うつ状態、心身症、不眠症

【年齢】 30代

【性別】 女性

【傷病名】 うつ状態、心身症、不眠症

処方状況

- ・睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬をA病院とB病院で重複処方。
- ・それぞれ別の薬局を利用。

- ・睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬をA病院とC病院で重複処方。
- ・それぞれ別の薬局を利用。

飲み方

- ・服薬しても直後に嘔吐してしまい、飲み直すと足りなくなってしまう。

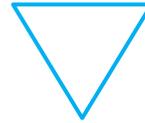
その他

- ・服薬直後に嘔吐してしまうとまったく眠れない。
- ・胃腸が弱く、食事が摂れない。

3. 事例②

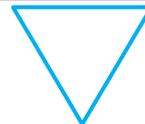
保健指導支援

- ・ 体格を確認する必要がある。痩せていなければ、吐いていない可能性がある。



訪問

- ・ 痩せ細っているという印象は受けなかった。
- ・ 医師に嘔吐してしまうこと、嘔吐時の服薬方法について相談するように伝えた。

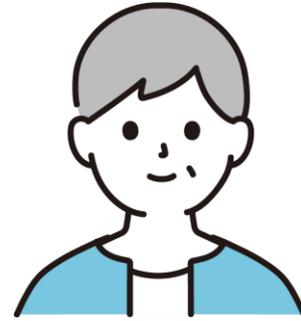


その後

- ・ 重複服薬以外の課題が明らかになる。福祉課につながる。
- ・ レセプトの確認を継続中。重複服薬は改善せず。

3. 事例③

- 【年齢】 70代
- 【性別】 女性
- 【傷病名】 うつ病、心身症、不眠症、頭痛



処方状況

- ・睡眠薬、抗不安薬、鎮痛薬をD病院とE病院で重複処方。
- ・それぞれ別の薬局を利用。

飲み方

- ・睡眠薬を服用するが、夜中に目覚めてしまい4時間睡眠になる。

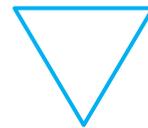
その他

- ・受け入れは良いが、残薬確認など問いに対する回答はない。
- ・「体調はずっと悪いよ。いい時なんてない。」

3. 事例③

保健指導支援

- ・ 薬の依存を他に向けられるとよい。多用は認知症になる可能性がある。
- ・ 処方されていた睡眠薬は依存性が高く現在はあまり使われていない。
- ・ 依存症の困難事例について情報提供していただいた。
- ・ 話を聞いてくれる民生委員などを紹介してはどうか。



その後

- ・ 訪問や電話をしても連絡がつかず、保健指導を実施できていない。
- ・ レセプトの確認を継続中。重複服薬は改善していない。

3. 事例④

- 【年齢】 50代
- 【性別】 女性
- 【傷病名】 アルコール性肝疾患、不眠症



処方状況

- ・睡眠薬をF病院とG病院で重複処方。
- ・それぞれ別の薬局を利用。

飲み方

- ・眠れない時に飲んでいる。毎日飲んでいるわけではない。
- ・眠剤を飲むと眠れる。

訴え

- ・夜遅くまで働き、生活が不規則のため、眠れない日がある。

3. 事例④

保健指導支援

- ・処方されている睡眠薬は肝代謝の薬である。薬剤師は知らないのではないか。

訪問

- ・アルコール性肝炎は今は改善している。クリニックから総合病院に紹介となり、治療ののち改善した。
- ・1日多くても2錠。使わない分は手元に残っている。残薬30日分を確認。
- ・手元に薬がないと不安。

その後

- ・重複服薬は改善せず。

4. 抽出条件

重複服薬者

3か月連続で以下の状況を確認した者

- ①1月に3以上の医療機関で同一薬効の投与（湿布薬、風邪薬を除く）を受ける者。
- ②1月に2以上の医療機関で向精神薬を処方された者のうち処方周期（処方日数）、受診状況から重複を確認した者。

多剤投与者

2か月連続で以下の状況を確認した者

- ①同一月内に処方日数が1日以上で6剤以上の処方（薬効分類単位）を受けた65歳以上の者。
- ②上記①のうち傷病名にがん、認知症、難病等の記載がなく生活習慣病がある者。
- ③上記①及び②のうち要介護認定のある者は除く。

5. 事業を活用してのまとめ・今後の課題

まとめ

- ・ 保健師のみでは十分にわからない薬の代謝や飲み合わせの知識、処方に関する情報を教えていただくことができた。
- ・ 多職種の見点で考えることで支援の幅が広がり、より個別性のある指導につながっている。
- ・ 事例検討は、今後同じケースに関わるときに役立つだけでなく、類似ケースにも応用できるような知識や介入方法を知ることができる。

今後の課題

- ・ 重複服薬が改善せず、何度も対象者として抽出される場合が多い。
⇒ 長期的な視点で多職種での支援が必要。
- ・ 多剤投与者の抽出方法や支援方法の確立。